

クリオキノールによるアルツハイマー病 タウ蛋白リン酸化・オリゴマー化の抑制効果

濱野 忠則 (福井大学医学部脳神経内科)

竺 飛燕 (福井大学医学部脳神経内科・浙江省立同徳医院神経内科)

林 高平 (福井大学医学部脳神経内科・浙江省人民医院神経内科)

勝木 歩 (福井大学医学部脳神経内科)

佐々木宏仁 (福井大学医学部脳神経内科)

山口 智久 (福井大学医学部脳神経内科)

榎本 崇一 (福井大学医学部脳神経内科)

白藤 法道 (福井大学医学部脳神経内科)

上野亜佐子 (福井大学医学部脳神経内科)

井川 正道 (福井大学医学部脳神経内科)

山村 修 (福井大学医学部脳神経内科)

Nicolas M Kanaan (Michigan State University, Department of Translational Science and Molecular Medicine)

Yen Shu-Hui (Mayo Clinic Jacksonville, Department of Neuroscience)

研究要旨

近年 Cu^{2+} , Zn^{2+} のキレート薬であるクリオキノール (CQ)、およびその誘導体がアルツハイマー病 (AD) をはじめとする認知機能障害に対し有効である可能性を示唆する臨床・基礎研究がみられ、関心を持たれている。基礎研究ではアミロイド 蛋白 (A β) に対する効果はマウスモデルや細胞モデルで確認されているが、タウ蛋白に対する検討はほとんどみられない。今回我々は野生型タウ蛋白を TetOff 誘導系により発現する神経系細胞を用いて CQ のタウ蛋白リン酸化、および重合に及ぼす影響につき検討した。1~5 μM の CQ は形態変化、および生存細胞数の変化はきたさなかった。また 2 μM の CQ により細胞内の Cu^+ の蓄積量は著しく減少した。さらに 1~5 μM の CQ は総タウ・リン酸化タウの減少をきたした。さらにサルコシル不溶性画分の重合したタウの減少効果も認めた。さらに細胞毒性が強いとされるタウオリゴマーの減少効果が 1 μM の CQ により明らかに認められた。タウリン酸化酵素 c-Jun N-terminal kinase (JNK)、および p38MAP kinase (p38MAPK) の活性低下、およびタウ脱リン酸化酵素 protein phosphatase2A (PP2A) の活性化も認められた。さらにプロテアソーム、およびオートファジーの活性化を示唆する所見もみられた。以上の結果より、さらなる検討が必要ではあるが、低用量の CQ は AD 発症予防、あるいは進展抑制に効果を示す可能性が示唆された。

A. 研究目的

スモン病はキノホルム：クリオキノール (CQ) の過剰摂取により発症した視神経、脊髄、末梢神経を障

害する疾患である¹⁾。CQ は 1970 年に発売中止となり、それ以降新規の患者はみられていない¹⁾。しかし近年 CQ がアルツハイマー病 (AD) をはじめとする認知

機能障害に対し有効である可能性を示唆する基礎^{2,4)}、臨床研究⁵⁾がみられ、関心を持たれている。しかし CQ 非服用者と比較して差がないとする報告もみられ⁶⁾、いまだ定説に至っていない。AD の病理学的所見は A β から構成される老人斑²⁾と高度にリン酸化されたタウ蛋白より形成される神経原線維変化 (NFT)^{7,9)} である。CQ は血液脳関門を通過し¹⁰⁾、亜鉛や銅に対するキレート作用が強いことが知られている。また、A β に対する効果として、APP2576 トランスジェニックマウスで脳内の A β の沈着が 49% 減少することが示された²⁾。これは A β には、Cu, Zn が多く含まれるため、Cu, Zn に選択的なキレート作用を有する CQ が沈着した A β を可溶化する、という仮説に基づく²⁾。また、近年 CQ は Cu 依存性に A β オリゴマー形成を著しく抑制することが示された³⁾。Cu²⁺ はタウの過剰リン酸化をきたしタウの重合を促進する⁹⁾。Zn は Raf/MAPkinase の活性化によりタウのリン酸化を亢進させる¹²⁾ とともに、protein phosphatase2A (PP2A) を不活性化する¹³⁾ ことにより結果的にタウのリン酸化を亢進させる。さらに、臨床研究では、36 例に対する検討では、Alzheimer's Disease Assessment Scale-cognitive component (ADAS) の悪化が、CQ 投与群では有意に緩徐であることが示されている⁵⁾。これらの基礎・臨床研究の結果は CQ が AD の発症を予防する、あるいは軽度認知障害 (MCI) から AD への進展を予防していることを示唆するかもしれない。今回我々は、CQ が我々の野生型タウ (4R0N) を発現するヒト神経芽細胞種細胞を用い、CQ がリン酸化タウを減少させるか、そしてタウリン酸化酵素 (JNK・p38MAPK) 活性、およびタウ脱リン酸化酵素 (PP2A) 活性におよぼす影響について検討した。さらにタウオリゴマー量についても検討を加えた。

B. 研究方法

Tet-Off 誘導系を導入し野生型タウ蛋白 (4R0N) を発現する神経系細胞 M1C を用い、5 日間タウ蛋白を発現させた。タウ蛋白発現の最終 24 時間に 0.1~5 μ M の CQ を添加し、CQ のタウ蛋白リン酸化に及ぼす影響につき PHF-1, CP13, AT270, AT180 といったリン酸化タウに対する抗体を用いて Western blot 法

により検討した。同時にタウ蛋白リン酸化酵素 JNK・p38MAPK 活性、脱リン酸化酵素 PP2A 活性についても検討した。細胞毒性が強いとされるタウ蛋白オリゴマー形成抑制についてもタウオリゴマーに特異的とされる tau oligomer complex 1 (TOC1) 抗体を用いて検討した。また細胞毒性の有無に関しては、morphological study, ならびに ATP assay により行った⁷⁾。統計学的解析は、SPSS version 27 を用い、Student t test や one-way analysis of variance (ANOVA) につき検討し、P < 0.05 を有意と判定した。

C. 研究結果

Morphological study では 5 μ M までは形態の変化は認めなかった。また ATP assay では、0.1~10 μ M の CQ では細胞死は生じなかった。2 μ M の CQ により細胞内の Cu⁺ の蓄積量が著しく減少することが蛍光プローブを用いた検討により明らかになった。また、1~5mM の CQ 投与により総タウ、および PHF-1, CP13, AT270, AT180 で検出されるリン酸化タウが有意に減少した。タウ蛋白リン酸化酵素に関しては JNK の活性低下が示された。同時に脱リン酸化酵素 PP2A の活性化が示された。また 1 μ M の CQ により NFT 形成に重要と考えられるサルコシル不溶性画分でのタウの減少がみられた。さらにトリス不溶性、サルコシル可能性画分では、TOC1 陽性のタウオリゴマーの減少も示された。またタウ分解に重要とされるオートファジー⁹⁾、およびプロテアソーム⁸⁾の活性化を示唆する所見も認められた。

D. 考察

CQ はタウ蛋白リン酸化酵素 JNK、p38MAPK の不活性化、およびタウ脱リン酸化酵素 PP2A の活性化を介してタウ蛋白のリン酸化を抑制することが示唆された。またオートファジー・プロテアソームといったタウ分解経路を活性化することによりタウオリゴマーが減少する可能性が推察された。

E. 結論

CQ は総タウ・リン酸化タウの減少、およびタウオリゴマーを減少させる効果を示した。また少なくとも

5 μ M 以下であれば著しい細胞毒性は示さなかった。
今後の動物モデル等による検討を含めたさらなる検討
が必要ではあるが、低用量の CQ が AD の発症予防や
初期 AD の進展抑制に役立つ可能性が考えられた。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Hama Y, Hamano T, Shirafuji N, et al., Influences of Folate Supplementation on Homocysteine and Cognition in Patients with Folate Deficiency and Cognitive Impairment. *Nutrients*. 2020; 12: 3138.
- 2) Hamano T, Shirafuji N, Yen SH, et al., Rho-kinase ROCK inhibitors reduce oligomeric tau protein. *Neurobiol Aging*. 2020; 89: 41-54.
- 3) Kitazaki Y, Ikawa M, et al., Hamano T. An autopsy case of tuberculous meningitis undiagnosed by nested-PCR of CSF samples and brain biopsy. *J Neurol Sci*. 2020; 415: 116968.
- 4) Kitazaki Y, Ueno A, et al., Hamano T. A case of longitudinally extensive transverse myelitis with an isolated pontine lesion following epidural and spinal anesthesia for cesarean section. *eNeurologicalSci*. 2020;
- 5) Endo Y, et al., Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H. Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol Commun*. 2019; 7: 12.

2. 学会発表

- 1) Zhu, F., Lin, G., Hamano T, et al., Clioquinol reduces tau phosphorylation and oligomerization: Molecular and cell biology/tau. AAIC 2020, Amsterdam, Netherlands, *Alzheimer's & Dementia*, 16, e044356.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(整理番号) FU976

(提出日) 令和 2 年 12 月 28 日

(発明者) 濱野忠則

(発明の名称) ROCK 阻害薬および Syk 阻害薬の利用

I. 文献

- 1) Konagaya M, et al. Clinical analysis of long-standing subacute myelo-optico-neuropathy: sequelae of clioquinol at 32 years after its ban. *J Neurol Sci*. 2004; 218: 85-90.
- 2) Cherny RA, et al., Treatment with a copper-zinc chelator markedly and rapidly inhibits beta amyloid accumulation in Alzheimer's disease transgenic mice. *Neuron* 2001; 30: 665-76.
- 3) Matlack KE, et al., Clioquinol promotes the degradation of metal-dependent amyloid- (A) oligomers to restore endocytosis and ameliorate A toxicity. *Proc Natl Acad Sci USA*. 2014; 111: 4013-8.
- 4) Zhu, F., et al., Clioquinol reduces tau phosphorylation and oligomerization: Molecular and cell biology/tau. *Alzheimer's & Dementia*, 16, e044356.
- 5) Ritchie CW, et al., Metal-protein attenuation with iodochlorhydroxyquin (clioquinol) targeting Abeta amyloid deposition and toxicity in Alzheimer disease: a pilot phase 2 clinical trial. *Arch Neurol*. 2003; 60: 1685-91.
- 6) 齊藤由扶子ら, スモン患者における認知症の合併について 検診データベースに基づく検討。厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)) スモンに関する調査研究平成 24 年度総括・分担研究報告書。2013, pp 224-226
- 7) Hamano T, et al., Pitavastatin decreases tau levels via the inactivation of Rho/ROCK. *Neurobiol Aging*. 2012; 33: 2306-20.
- 8) Hamano T, et al., Concentration-dependent effects of proteasomal inhibition on tau processing in a cellular model of tauopathy. *Int J Clin Exp Pathol*. 2009; 2: 561-73.
- 9) Hamano T, et al., Autophagic-lysosomal perturbation enhances tau aggregation in transfectants with induced wild-type tau expression. *Eur J Neurosci*. 2008; 27: 1119-30.
- 10) Padmanabhan G, et al., Clioquinol. *Analytical profiles of drug substances* 1990; 18: 57-90.

- 11) Crouch PJ, et al., Increasing Cu Bioavailability inhibits Abeta oligomers and tau phosphorylation. *Proc Natl Acad Sci US A* 2009; 106: 381-386.
- 12) Kim I, et al., Zinc stimulates tau S214 phosphorylation by the activation of Raf/mitogen-activated protein kinase-kinase/extracellular signal-regulated kinase pathway. *Neuroreport*. 2011; 22: 839-44.
- 13) Xiong Y, et al., Zinc induces protein phosphatase 2A inactivation and tau hyperphosphorylation through Src dependent PP2A (tyrosine 307) phosphorylation. *Neurobiol Aging* 2013; 34: 745-756.